

景観でつながる情報誌

# 益田 PLUS 景観

Masuda PLUS+ Keikan



## CONTENTS

P 2,3 地域独自の景観まちづくりを目指す

### 景観ワークショップ

P 4 景観を支える人たち

- ・ひとまるの里小野ボランティア会
- ・二川子ども会

（**ますだ**  
**景観**）  
きんだい

この情報誌は近畿大学建築学部都市計画研究室が作成しています。平成 21 年度から大阪の学生が益田に訪れていますが、益田の人々にとって当たり前風景も、近畿大学の学生である私たちにとっては、特別な素晴らしい風景なのです。益田景観に対して取り組みを行なう市民の方々や、私たちがこれまでに取り組んできた活動の紹介、益田で感じた魅力を情報誌に収めています。



特集

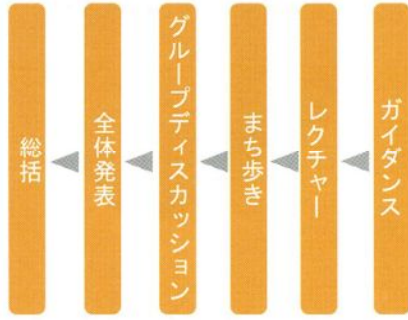
# 景観ワークショップ

益田には良好な景観が多くあります。しかし、それらを保つためには、多くの市民が景観に関心を持ち、行政と協働していくことが必要となります。

景観まちづくりの初めの一步は、何気ない風景に気づくことです。そのきっかけづくりのため、益田市では平成21年度から景観ワークショップを実施しています。

今回は、平成24年度の景観ワークショップについて紹介します。

## ワークショップの流れ



▲ディスカッションの様子

## 平成24年度 景観ワークショップ



▲各班の提案を全体で共有している様子

景観ワークショップでは、地域を訪れ、地域ごとの魅力ある景観を再発見するために、まち歩きやディスカッションなどを行います。

平成24年度も農村・漁村・歴史的市街地でワークショップを実施しました。ワークショップでは地元の方々も交え、地域の景観の魅力や課題の抽出を行うことで、自分には無かった新しい視点や考えを見つけることができます。

### 第1回

## 農村の原風景を守る



日時：10月13日(土)  
参加者：33名(うち学生9名)  
会場：土井ノ原集会所

昔ながらの生活景が色濃く残る匹見町澄川(土井ノ原)で開催しました。

まち歩きでは、ボラロイドカメラと写真額縁を使い、澄川の美しい風景や残したい風景を撮影しました。ディスカッションでは、写真をもとに地域の魅力や課題を確認し、「魅力を活かす」「課題を改善する」ための方法について話し合いました。

澄川にはなだらかな傾斜地に立ち並ぶ赤瓦の家なみや石積みなどの美しい景観が見られます。それらの美しい景観を、ガイド育成やマップ作成などを通して、多くの人に知ってもらいたいという意見がでました。



▲写真額縁で風景を切りとる様子

### 第2回

## 歴史的な まちなみを守る



日時：11月10日(土)  
参加者：24名(うち学生8名)  
会場：妙義寺

中世の遺構や、かつてのまちなみの面影が残る七尾町で開催しました。

まち歩きでは、「三宅御土居跡前の通り」「妙義寺参道」などの6つの通りに着目し、気付いた点をメモしながら歩きました。ディスカッションでは、「景観的に重要なと思う通り」を選んで、その通りの特徴と景観をよりよくするための方法について話し合いました。

七尾町は昔ながらの商店があり、かつての城下町の面影が残っています。歴史ある社寺やまちなみを活かすには、通りとの関係を大切ににし、まち全体のルールづくりを考えることが重要ではないかという話し合いが行われました。



▲通りの特徴をメモしながらまち歩きしている様子

### 第3回

## 漁村の原風景を守る



日時：12月15日(土)  
参加者：35名(うち学生8名)  
会場：小野地区振興センター

密集した漁村のまち並みが残る戸田町・小浜町で開催しました。

まち歩きでは、「戸田町・小浜町にふさわしい家」「海岸から見える家なみ」などの5つのテーマをもとに、写真を撮りました。ディスカッションでは、写真を見ながら「住民の方たちができる活動の提案」「建物に関する提案」の2つの視点から、戸田町・小浜町らしい景観を守るため、つくるための方法を考えました。

戸田町・小浜町は衣毘須神社や夕日スポットなどの地域資源があります。この美しいまちの景観を守っていくには、後世に継承することが必要だという意見がありました。



▲「いい景観だと思うまちなみ」の写真を撮る様子



# 景観ワークショップ

## リーダー育成講座

本講座は、ワークショップ運営の手法や知識について、講義や実際のワークショップを通じて学ぶものです。

さらに、この講座に参加された方を中心として、各地域で景観ワークショップを「自主開催」できるような体制を整えていくことを目的としています。

### 入門編

第1回は、主に景観に対する基礎知識の習得と、これから行うワークショップの手法について学びました。

### 実践編

第2〜4回は、前ページで紹介した地域別ワークショップと連動して行われました。

午前は、講座受講者のみで、本番を想定したまち歩き、グループディスカッションを行いました。午後からは実際に地域住民の方と一緒にまち歩きやディスカッションをしながら、景観について考えました。第3〜4回では、受講者の方にテーブルリーダーに挑戦していただきました。挑戦



▲受講者がテーブルリーダーに挑戦

### 最終回

第5回は、これまでのまとめとして、「振り返り」と「今後の展望」について話し合いました。この講座で学んだことを活かして「益田市の景観の情報を発信していきたい」や「自分のまちでワークショップを開催したい」「地域の人に呼び掛ける人になりたい」という声を聞くことができ、受講者の景観に対する意識が大きく変わったことを確認することができました。



▲最終回の様子

## 受講者の声

受講者の方に「講座に参加して」の感想をお聞きしました。今回は受講者の中から4名の方の声をお届けします。

今後は、景観計画が策定される過程で地域住民の景観に対する意見の集約が必要になります。その時は、地域の世話役・まとめ役として、都市デザイン課や近畿大学と連携して景観計画策定に関わっていきたいと考えています。



益田地区地域力アップ  
応援隊員 石田さん

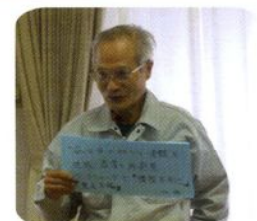
また、その他にも、地域内での「様々なテーマのワークショップの開催」や「益田地区での景観の保存と活用（情報発信、情報供給）の活動」などにも挑戦していきたいと考えています。

県外から益田に住み始めてまだ何も知らないとき、「益田を知りたい!」と思い講座に参加しました。講座の中でまち歩きをしているとき、普段は何気なく通っている道やまちでも少し意識を変えて地元の方と歩いてみると、気付かなかったことにも気が付き、新しい発見が出来ます。それが、この講座のおもしろいところです。

講座を重ね学んでいく中で、「現実的になにかをやりたい」と意識が変化し、これからも講座に参加したいと思っています。



建築士事務所協会  
田中さん



益田地区地域力アップ  
応援隊員 加藤さん

私は、益田市の地域力アップ応援隊員として、山間地域の急速な少子高齢化の中で、美都・東仙道地区において、少しでも若者・女性

性が住みやすいまちづくりを推進していきたいと考えて、「益田市景観ワークショップリーダー育成講座」に参加させていただきました。この人口減少にできるだけ早くブレーキを掛けるためには、まず地域の現状を地域の方々と共に把握する必要があります。その対策と解決のためのアプローチの一つとして、今回のワークショップを活用していただけたらと考えています。

ワークショップの運営について勉強させていただきました。テーブルリーダーをさせていただく機会もいただきましたが、もっと景観計画につながるような議論ができればよかったと後悔しています。ワークショップでは、近畿大学の学生さんをはじめとする地域外の人の発想と地元の方の知識で深みのある議論になりました。



二川地区地域力アップ  
応援隊員 小原さん

自分のまちで景観ワークショップを開催する為に、景観計画などの目標を定めることや、一回のワークショップで完結せず、いかに継続して地域の意識を高めるかという課題が見えました。



## 景観を支える人たち

### ひとまろの里 小野ボランティア会の取り組み

ひとまろの里小野ボランティア会会長  
海邊 隆通氏

昭和四十年代までの小野地区では、厨子二階（二階が低くなっている様式）の家屋が建ち並んだ風景、縁側での会話や将棋遊びなどの懐かしい景観を見ることができましたが、現代ではその面影をほとんど見ることができなくなりました。「ふるりの素晴らしさを知ろう」を合言葉に、ボランティア会の有志で、小野地区独特の景観づくりに取り組んでいます。

活動は、①景観のポイントを巡るウォーキング②ふるりガイドマップと小冊子「小野探訪」の作成③案内板の設置④夕日スポット小浜の礁にベンチの設置等を進めてきました。ふるりの良さの再認識とその共有を図るために、現在、ボランティアガイドの育成に取り組んでいます。美しい景観は住みよい町・住みたい町の基盤と考え、地域全体で景観づくりの意識を醸成する活動に取り組み、次世代へ繋げたいと考えています。



1



小野探訪

1 夕日スポットに設置されたベンチ

2 小野地区のガイドマップ「小野探訪」

益田市内で活動している景観活動団体を紹介します。

### 二川子ども会の取り組み

二川地区振興センター長 小原 美智子氏

子ども神輿、どんど焼きなどで地区の子どもを巻き込み、地域の活性化を目指しています。

子ども神輿では、もともと大人がやってきた神輿を子どもにもやってもらうことで地域の伝統行事を受け継いでもらうことを目的としています。

どんど焼きは、しめ縄や書き初め、お守りを燃やす行事で、一月の第二週の日曜日に行っています。最近では、美都温泉と連携し、温泉に訪れた宿泊客にこの行事を見てもらえるようプロモーションを行っています。

二川の景観は、このような行事があつてのまちであり、それらを守っていくことで地域特有の景観が守られると思っっています。今後は、地域外の人も巻き込んだ活動を発展させていきたいと考えています。



3



4

3 子ども神輿の様子 4 どんど焼きの様子

## 表紙の絵

表紙を飾る、どこか懐かしさを感じさせる絵は、益田東高等学校美術部生徒の作品です。美術部の作品には、益田の何気ない風景の魅力が表現されています。

## 「赤い橋」

画・文：藤本 鮎佳

この絵は、高津川に架かる歴史のある橋を描いたものです。

この橋は、私が幼いころからよく眺めていた思い出の橋で、昭和30年に架けられて以来の歴史を感じます。



## 最後に...

「益田 + 景観」をご愛読いただきありがとうございます。

平成24年度も農村、漁村、歴史市街地の景観について取り上げました。どのような景観要素が各地域の景観を形づくっているのか、また、どのような魅力が隠れているのかを紹介しました。

「景観塾」では、全国で行われている景観への取り組みの先進事例を紹介し、景観計画を身近に考えられるよう、他事例と益田

市の景観に関する事業の実態とを関連づけながら紹介してきました。

「景観を支える人たち」の紹介では、益田市の景観活動団体の活動内容や活動するに当たっての意気込み、今後の展開などをお伝えしてきました。

「益田 + 景観」が景観を見直す第一歩となり、景観を楽しんでもらうきっかけとなることを祈っています。

近畿大学 都市計画研究室

### 【制作】

近畿大学 都市計画研究室

〒577-8502

大阪府東大阪市小若江3-4-1

都市計画研究室ホームページ

<http://urbanlab-kindai.main.jp/>

都市計画研究室ブログ

<http://urbankindai.blog84.fc2.com/>

平成25年度も近畿大学都市計画研究室は、景観事業のお手伝いをさせていただきます。

引き続き景観情報誌「益田+景観」を発行します。新たな景観についての情報を発信していきますので、楽しみに。